

2024 年度
部局自己点検・評価報告書
(評価対象年度：2023 年度)
(HP 掲載用)

新潟薬科大学
医療技術学部

質保証推進委員会

目 次

1. まえがき

2. 評定について

3. 医療技術学部 自己点検・評価

I. 教育活動について

I-1. 学生の受入れについて

- (1) 広報活動について
- (2) 入学者選抜・入学試験結果について
- (3) 新入学生の状況について

I-2. 学習成果について

- (1) 教育課程の編成・実施について
- (2) 学修成果について
- (3) 授業運営について
- (4) 国家試験について

I-3. 学生支援活動、キャリア支援活動について

- (1) 学生修学・生活支援について
- (2) キャリア支援について

I-4. AP、CP、DP、3 方針の整合性について

II. 研究活動について

III. 社会連携・社会貢献活動について

- III-1. 国際交流について
- III-2. 高大連携について
- III-3. 地域連携について

IV. 教員・教員組織について

- IV-1. 教員組織について
- IV-2. FD 活動について

V. 定員・学費の適切性について

1. まえがき

2023 年 4 月に新たに開設された医療技術学部臨床検査学科は、いろいろ模索しながら進めてきた点がなかったわけではないが大きなトラブルなく 1 年を終えたと考えている。

個々の項目ごとの自己点検と評価の詳細はそれぞれの項目を参照していただき、ここでは総括的に記載することとする。

文部科学省の開設承認は大きな変更の指摘はなく、順調に承認校としての認可を得た。本学部の特徴として、臨床検査技師、薬剤師、医師の資格を持つ臨床経験の豊富な教員だけではなく、医療に直結した遺伝子の解析や免疫を専門とする基礎研究者や臨床検査学に密接に関係する技術に精通した研究者などバラエティに富んだ教員スタッフを配置した。他にはない特色ある最先端の臨床検査学教育を実践するという教育目標を据えることができた。一方実際の講義や実習を行うにあたって、今後学年が進むにつれて、専門性を求められる実習が増えてくることから教育に支障が出ないように更なるスタッフの充実が必要であると考えられる。

1 年目の入学者は定員を超える 62 名であったが、学生にとっては臨床検査学科の教育内容や卒業後の業務内容については明確でない点があるので、講義実習の中で目指すべき医療人としての像を明確に示していきたい。学生支援は学生委員会、教務委員会を中心にアドバイザーや時に学部長も加わって手厚く行っているが、学生が問題を抱え続けられないようによりきめ細かい対応を検討すべきと感じる。多くの学生は意欲的に学修に取り組んでおり留年生はごく少数にとどまった。

対外活動、高大連携や地域連携についてはまだ始まったばかりであり、十分な成果は得られなかったが、今後意欲的に取り組んでいきたい。

2 年目以降は未体験ゾーンであり、未知数な点が多いが、外部の情報を参考にしながら学部一丸となって学生が最大限の成果を上げ国家試験合格という目標に到達できるように取り組んでいきたい。

医療技術学部における各点検項目に対する、質保証推進委員会の自己評価は、「2. 評定について」に記載のとおりとした。

自己点検・評価による現状の把握と分析は、課題の抽出と改善だけでなく、学部の発展に寄与する新しい学びに繋がるため、新たな PDCA サイクルの起点として、「2024 年度 部局自己点検・評価報告書(評価対象年度：2023 年度)」を活用していきたいと考えている。

2025 年 1 月 29 日

医療技術学部長

質保証推進委員長

青木 定夫

2. 評価について

I. 評価の基準

2023年度の各項目における評価は、以下のSからCの4段階評価で自己評価した。

S	高い水準で取り組み、卓越した成果があがっている。または特筆すべき取り組みを行っている。
A	適切な取り組みがなされ、成果があがっている、または近く確実な成果が見込まれる。
B	積極的な取り組みがなされているが、十分な成果には至っていない。
C	ほとんど取り組みがなされておらず、成果があがっていない。

II. 評価一覧

医療技術学部 自己点検・評価（質保証推進委員会による自己評価）

項目名	評価
広報活動について	A
入学者選抜・入学試験結果について	B
新入学生の状況について	B
教育課程の編成・実施について	B
学修成果について	B
授業運営について	B
国家試験について	B
学生修学・生活支援について	A
キャリア支援について	B
AP、CP、DP、3方針の整合性について	—
研究活動について	A
国際交流について	A
高大連携について	C
地域連携について	B
教員組織について	B
FD 活動について	B
定員・学費の適切性について	B

3. 医療技術学部 自己点検・評価

I. 教育活動について

I-1. 学生の受入れについて

(1) 広報活動について 《点検担当：山下委員、入試課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

2023 年度資料請求数 19,280 件、資料請求を行ったうえで OC に参加した学生の割合は 4.4%、資料請求から出願につながったのは 2.4%、OC 参加から出願につながったのは 35.4%と高く、OC の実施効果が認められた。また、資料請求もなく OC も参加せず出願につながったのは 0.72%であった。

医療技術学部の OC 参加者数は 2023 年度で前年比 113.5%とやや増加している。特に、伸び率から考えて、6 月、7 月、8 月の実施は非常に効果的であったと考えられる。OC の体験プログラムへの参加者もやや増加傾向にあった。【資料 3_I-1_(1)-1】【資料 3_I-1_(1)-2】 大学案内や OC では臨床検査技師の職業内容について紹介しているが、さらに深く体験などを通して理解し、将来性を実感するための普及活動が必要である。

全学の資料請求数は、新潟県(8.7%)、山形県(6.0%)、福島県(5.8%)はやや増加傾向にあり、特に富山県は 1.5 倍に増加した。【資料 3_I-1_(1)-3】 出張講義は 5 回実施して、高校生に対しては約 180 名に講義を行った。【資料 3_I-1_(1)-4】

本学独自で開催した地方会場での出張ガイダンスは 8 回で、医療技術学部の参加者は全会場で 3 名にとどまり、あまり効果的な活動とは考えにくい。【資料 3_I-1_(1)-5】

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	臨床検査技師の職業内容や将来性の普及活動を充実させる。
上記の方策	2024 年度には臨床検査学入門講座を実施して、臨床検査技師の職業内容や将来性の普及活動を充実させる。更に講座の受講状況を分析して、総合型選抜試験の一形態として追加できるか関係部署と検討する。
課題 2	受験につながる奨学金制度の充実を図る。
上記の方策	東北地域の病院により、すでに実施されている奨学金制度の情報を網羅して受験生に提供する。さらに今後奨学金制度の充実を希望される病院とタイアップして、新たな病院奨学金制度の充実を図る。これらの病院奨学金制度の情報を受験生に提供することにより、受験生の確保につなげる。

【根拠データ、資料】 ※赤字は学外非公表

資料 3_I-1_(1)-1	オープンキャンパス参加人数※医療技術学部
資料 3_I-1_(1)-2	オープンキャンパスプログラム別参加人数
資料 3_I-1_(1)-3	資料請求者数(全学)
資料 3_I-1_(1)-4	2023 年度出張講義(医療技術学部)
資料 3_I-1_(1)-5	出張ガイダンス実施結果

(2) 入学者選抜・入学試験結果について 《点検担当：梨本委員、入試課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

医療技術学部では、入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー：AP）に基づき入学者選抜を行っており、各入試区分において課す試験内容と AP との対応も明確に定めている。また、学力の 3 要素「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を身に付けていることを求めている、全入試区分においてこれら 3 要素の修得の程度を確認している。【資料 3_I-1_(2)-1】

【資料 3_I-1_(2)-2】

2024 年度入学者数は、前年度の 62 人に比較して 5 人減少し、57 人（定員充足率 95%）であった。学校推薦型選抜試験では、前年度比約 13%増と好調であったが、一般選抜試験個別方式及び大学入学共通テスト利用方式の合計で前年度比約 28%減となった。一般選抜試験個別方式 I 期の歩留まり率は 2023 年度入試は約 34%、2024 年度入試は約 43%と悪くないものの、2024 年度入試では全体的な志願者数の減少が見られた。大学入学共通テスト利用方式 A 日程では、志願者数はほぼ同数であったものの、歩留まり率が 2023 年度入試は約 12%であったの対し、2024 年度入試では 2.5%まで減少した。【資料 3_I-1_(2)-3】【資料 3_I-1_(2)-4】

学校推薦型選抜試験の指定校枠の設定について、2023 年度入試では設置認可が下りた時期が 8 月末だったこともあり、通常より遅い通知時期であることに鑑みて、県外は一部のみに限定したことから、受験者はほぼ県内からという状況であった。2024 年度入試では県外からの志願者を見込んで東北地方、隣県にも拡大した結果、県外からの志願者は 3 倍になり、県内からの志願者も 21%増加した。一方、一般公募の受験者数は 2023 年度に比してほぼ半減した。【資料 3_I-1_(2)-5】

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	定員充足率の向上
上記の方策	2024 年度入学者数が、受験者数の減少に伴い 57 人（定員充足率 95%）と定員割れしており改善が求められる。 学校推薦型選抜試験の指定校制においては、唯一、受験者数の増加があったため、2025 年度以降の入試では指定校数および指定人数を増やすことにより受験者数の増加を図る。また、年内入試にシフトする受験者動向をふまえ、総合型選抜試験や併願可能な学校推薦型選抜試験を取り入れることにより受験者数の増加が期待できるか検討する。
課題 2	2023 年度入学者選抜の妥当性の検証
上記の方策	2023 年度入学生について、入試成績と 1 年次の学年末（2023 年度末）の成績との相関により、入学者選抜の妥当性の検証を行う。

【根拠データ、資料】 ※赤字は学外非公表

資料 3_I-1_(2)-1	2024 年度入試ガイド_学力の 3 要素について
資料 3_I-1_(2)-2	2024 年度募集要項_アドミッション・ポリシーと評価方法
資料 3_I-1_(2)-3	2023 年度入学試験 入学者数一覧
資料 3_I-1_(2)-4	2024 年度入学試験 入学者数一覧
資料 3_I-1_(2)-5	2023 年度及び 2024 年度学校推薦型選抜試験入学者実績

(3) 新入学生の状況について <点検担当：関委員、教務第二課>

【事実(データ)に基づく現状説明】

・後期開始時（2023 年 9 月 25 日）に、学部主導で、入試、教務、キャリアに関する包括的な新入生アンケートを実施した（回答者 53 名/62 名、回答率 85.5%）【資料 3_

I-1_(3)-1】。「大学の授業を難しいと感じていますか？」の質問に対し、「非常に難しい 9.6%」、「やや難しい 61.5%」の回答があり、7 割以上の新生が大学の授業を難しいと感じているとのデータを得ていたものの、このことに対して具体的な対策を講じることができなかった。2023 年度はプレースメントテストの実施を見送ったことから、新生の苦手分野を早期に把握することができず、このようなアンケート結果につながった可能性もある。

・2023 年度入学生 62 名のうち、2 年次への進級は 58 名 (93.6%)、留年は 2 名 (3.2%)、退学は 2 名 (3.2%)、休学は 0 名であった【資料 3_I-1_(3)-2】。進級率について、学部設置初年度であり評価が難しいところであるが、他学部の進級率（薬学部薬学科 92.2%、応用生命科学部応用生命科学科 97.5%、応用生命科学部生命産業ビジネス学科 98.0%、看護学部看護学科 97.2%）と比べ、やや低い結果となった。退学者 2 名の退学理由は「学力不足」と「学生生活不適應」であった。

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	プレースメントテストの実施
上記の方策	プレースメントテストを実施することで、入学者の学力水準を測り、得意分野および苦手分野を的確に把握する。苦手分野については、リメディアル教育を通し適切な対策を講じる。
課題 2	退学率の改善
上記の方策	上記の対策を講じることで、学力不足による退学者を減らし、退学率改善に努める。

【根拠データ、資料】

資料 3_I-1_(3)-1	医療技術学部アンケート結果（一部抜粋）
資料 3_I-1_(3)-2	入学年度別の入学者推移

I-2. 学習成果について

(1) 教育課程の編成・実施について 〈点検担当：関委員、教務第二課〉

【事実(データ)に基づく現状説明】

- ・学部設置申請時に文部科学省へ提出した学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）に基づき、教育を行っている。また DP 達成に向け、5 つの DP と各科目との関係を示したカリキュラムマップや、授業科目の順序性、体系性を DP と関連付けて示したカリキュラムツリーを公開している。これらは履修ガイドに掲載して周知しており、入学時オリエンテーションでも説明している。
- ・一部の科目（主として教養科目）に関しては、他学部（薬学部、応用生命科学部、看護学部）学部共通科目（情報リテラシー、外国語、体育等）として全学的に教育を行っている。大きな混乱なく実施運用できているものと考えている。
- ・DP の達成度を測るためのディプロマルーブリックの検討を開始したが、検討が不十分であり、完成には至っていない。

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	ディプロマルーブリックの作成
上記の	1 期生が 3 年次となる 2025 年度に示せるよう、教育委員会の指示のもと、

方策	教務委員会中心に準備を進めていく。
----	-------------------

【根拠データ、資料】

なし	
----	--

(2) 学修成果について 《点検担当：関委員、教務第二課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

・新入生に対して、基礎学力の定着を目的とした国家試験ステップアップセミナーを実施した。本セミナーでは、「臨床検査技師をめざす人の基礎トレーニングドリル」を用い、臨床検査技師の勉強に必要な基礎事項（生物、化学、数学）の解説と演習を中心に行った。前期末に習熟度テストを行い、その結果、平均点は 65 点であった。60 点未満が 21 名おり、成績下位の学生には補講を実施した。 ・GPA 制度を導入し、学業成績優秀者の決定に GPA 値を利用している。今後も研究室配属等の各種判定に利用していく予定である。
--

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	リメディアル教育の充実
上記の方策	リメディアル教育を実施する際は、その教育効果を測ることについて、なおざりにするのではなく、PDCA を意識した上で実施していく。

【根拠データ、資料】

なし	
----	--

(3) 授業運営について 《点検担当：関委員、教務第二課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

・授業の出席状況について、2023 年度後期から全学的に導入した出席管理システムを利用し、欠席が目立つ学生に対しては、すぐにアドバイザーから注意喚起やサポートが行えるよう体制を構築した。 ・特別な配慮が必要な学生に対して、学生支援総合センターからの要請のもと、関係教職員と情報を共有し、授業における合理的配慮を行った。 ・全ての授業科目について授業評価アンケートを実施した。全科目を集計した結果、「総合的に判断し、この授業に満足した」の設問に対し、「強くそう思う」と回答した割合が、前期科目 53.6%、後期科目 42.0%、「そう思う」と回答した割合が前期科目 41.5%、後期科目 52.8%であったことから、授業への満足度は高いことがわかる。 ・また、教務委員会でアンケートの自由記述コメントを精査し、特に授業改善が必要と判断した科目担当者に対し、授業改善報告書の作成を依頼し、学生へのフィードバックを行った。

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	出席状況の把握
上記の方策	専任教員による出席状況の把握やアドバイザーへの連絡は徹底できているものの、非常勤講師担当科目の場合はそれらが不十分になることがあった。

	非常勤講師担当科目についても、出席状況を適切に把握できるよう、体制を構築していく。
課題 2	授業評価アンケートの早期取りまとめ
上記の方策	授業評価アンケートの回答率向上を目指し、回答期限を延長した結果、取りまとめが遅くなり、指摘事項への改善を年度内に図ることができなかった。アンケート実施後は速やかに回答をまとめ、授業評価アンケート結果を次学期の授業へ活かせるよう活用していきたい。

【根拠データ、資料】

資料 3_ I -2_ (3)-1	2023 医療技術学部授業評価集計
-------------------	-------------------

(4) 国家試験について 〈点検担当：吉田委員、教務第二課〉

【事実(データ)に基づく現状説明】

- 臨床検査技師の国家試験の過去 5 年間の推移は、図表 1 のとおりである【資料 3_ I -2_ (4)-1】。新卒者で平均約 88%、既卒者になると平均約 28%である。既卒者として再度国家試験に臨み、合格することは大変難しい。そこで、1 期生を新卒者として全国平均以上の合格率で合格させるために 1 年次より「国家試験ステップアップセミナー」を前期・後期各 15 回実施した(表 2)【資料 3_ I -2_ (4)-2】。さらに夏休み期間には補習を実施した。 - 後期に行った 6 回の小試験(6 回)の平均の正答率(図 2)と出席率(図 3)を示す【資料 3_ I -2_ (4)-3】。小試験の平均点や出席率は各学生によりかなりの差異があることが分かった。そこで、2024 年度は国家試験対策の内容等を変更することを検討した。 - 国家試験は 10 分野より作成されており、各分野の得点力向上を目指すため分野ごとの責任教員を決定した(表 3)【資料 3_ I -2_ (4)-4】。
--

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	国家試験ステップアップセミナーの内容見直し
上記の方策	1 年次前期には専門科目がほとんどないため「講義の受け方」「レポートの書き方」「基礎トレーニングドリル」など実施したが、2024 年度は国家試験対策以外の内容は省くこととした。2024 年度「国家試験ステップアップセミナー」の内容は、国家試験問題の理解を深めるため、まず 3-4 回講義を実施し、内容を理解させた後に講義内容の確認テスト(小試験)を実施する。さらに、繰り返し国家試験類似問題に対峙することで記憶を定着させるために、半期(前期・後期)終了後にまとめ試験(総試験)を実施することとした。加えて学部内の全教員に各学生の成績、出欠の情報を共有し、アドバイザー担当教員にも指導を依頼する。

【根拠データ、資料】

資料 3_ I -2_ (4)-1	臨床検査技師国家試験合格率の推移
資料 3_ I -2_ (4)-2	2023 年度国家試験対策ステップアップセミナー日程表
資料 3_ I -2_ (4)-3	小テストの正答率と出席率
資料 3_ I -2_ (4)-4	国家試験の配点および対策責任者

I-3. 学生支援活動、キャリア支援活動について

(1) 学生修学・生活支援について 《点検担当：中川委員、学生支援課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

・「<u>留年/休学/退学状況</u>」【資料 3_I-3_(1)-1】 ① 留年者は 2 名となり、留年率は 3.2%であった。 ② 休学者は 0 名であった。 ③ 退学者は 2 名となり、退学率は 3.2%であった。本学部の退学率は、文部科学省令和 5 年度の中途退学者・休学者数の調査結果の平均 2.1%より高い退学率であった。 ・「<u>修学支援状況</u>」 学生とコミュニケーションを取り指導する場として、欠席届を学生が提出する際に学生に簡単な理由確認と必要に応じて指導を行うよう学生委員会から各アドバイザーに要請を行った。 ・「<u>生活支援状況</u>」 ① 学生間、及びアドバイザー教員との懇親のため、5 月 9 日にクップ大会を開催し、学生は任意参加としたものの、67.8% (42 名/62 名) の参加率となり 7 割に満たなかった。参加学生からは楽しかったなどの声が多数寄せられたが、クップ自体を知らない学生が大半であったことから参加率が伸びなかった。 ② 学生と担当教員との親睦を深め、より円滑な学生生活を送れるよう支援するアドバイザー活動費については、各アドバイザー教員が担当学生と連絡を取り、より多くの学生が参加できる日程を確保したことにより、88.7%の参加率となり高い参加率となった。 ・「<u>クラブ活動、学生活動支援状況</u>」 ① 学生支援総合センターと連携して、本学学友会（学生自治組織）が主催する新入生歓迎会、及び学園祭（対面式）を支援した。新入生歓迎会では、秋葉区及び新津商工会議所からの支援もあり学ランマップ加盟店で利用できる 2,000 円券を配布し、学生同士が仲良くなるきっかけ作りとして支援した。
・「<u>特待生・奨学金</u>」 2023 年度は、1 年生しか在籍していないこともあり、特待生等の対象者はいなかった。

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	退学率の改善を行う。
上記の方策	2024 年度の学生面談の実施時期や 2025 年度のオリエンテーションの実施方法（対面等）など有効な対策を検討し、実施する。
課題 2	生活支援の充実を図る。
上記の方策	2024 年度については、2023 年度の参加率を超えるよう、学生への周知をオリエンテーション時に説明するなど検討し、実施する。

【根拠データ、資料】

資料 3_I-3_(1)-1	医療技術学部退学休学留年率
資料 3_I-3_(1)-2	新入生歓迎イベント実施結果
資料 3_I-3_(1)-3	スキー&スノーボードスクール実施結果

(2) キャリア支援について 《点検担当：継田委員、キャリア支援課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

1 年次のキャリア支援については、社会で求められる能力を測定するプログテストを全員（62 人）が受験し、解説会を通して客観的に現状を把握するガイダンスを行った。

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	職能、職域に対して幅広い知識を持たせること。
上記の方策	臨床検査技師からの講演会等を行い、早期から意識付けを行う。 病院以外の企業等で、臨床検査技師の見学を行う。

【根拠データ、資料】

なし	
----	--

I-4. AP、CP、DP、3 方針の整合性について 《点検担当：青木委員長、教務第二課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

・学部設置初年度であり、教育活動を点検・評価する指標が少ないことから、現時点で 3 つのポリシーの適切性や整合性を判断することは難しい。今後、本学アセスメント・ポリシーに定められている「卒業状況」、「資格取得試験合格状況（医療技術学部の場合は臨床検査技師国家試験合格状況）」、「就職状況」、「卒業生アンケート」等の指標が揃った段階で、3 つのポリシーの整合性について点検・評価を行なうことが望ましいと考えている。

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	なし
上記の方策	なし

【根拠データ、資料】

なし	
----	--

II. 研究活動について 《点検担当：青木委員長、基盤整備課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

- ・「研究実績」は、学術論文 10 編、著書 5 編、総説 7 編、国内学会発表 36 件、国外学会発表 4 件であった【資料 3_Ⅱ-1】
- ・開設初年度ながら、科研費、各種助成金を積極的に獲得している【資料 3_Ⅱ-2】

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	研究業績の向上
上記の方策	学術論文の数は教授職によるものが殆どであるため、若手教員に対する研究活動の奨励をはじめ、全体的な研究レベルの底上げが求められる。
課題 2	外部資金獲得の増強
上記の方策	研究活動の活性化には外部資金の獲得が不可欠であるため、科研費をはじめとした競争的研究費や民間財団助成金への応募を奨励する。

【根拠データ、資料】

資料 3_Ⅱ-1	2023 年度 医療技術学部 研究業績
資料 3_Ⅱ-2	2023 年度 医療技術学部 外部資金獲得状況

Ⅲ. 社会連携・社会貢献活動について

Ⅲ-1. 国際交流について <<点検担当：青木委員長、学事課>>

【事実(データ)に基づく現状説明】

- ・モンゴル 3 校、タイ 1 校の計 4 校が 2023 年度新たに海外協定校となり、海外協定校は合計 15 校となった【資料 3_Ⅲ-1-1】。また、2023 年度に協定校となったマヒドン大学（タイ）とマルセロ教授が共同研究を行っているほか、ブラジルの研究機関 FIOCRUZ とも MOU を締結し、同教授が共同研究を推進している。
- ・コロナ禍の影響で前年度まで中止していた学生海外派遣事業を再開し、西シドニー大学への短期語学研修に学生 10 名（薬学部生 1 名、応用生命科学部生 4 名、医療技術学部生 1 名、看護学部生 4 名）を派遣した【資料 3_Ⅲ-1-2】。

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	今後、外国人留学生の受入れに向けて、各種体制や制度を整備する。
上記の方策	本学では今後、全学的に優秀で修学意欲の高い外国人留学生（学部・大学院・研究生）の受入れを推進する方針であるため、留学生獲得・受入れに向けて、具体的な施策（受入れ体制、学生募集及び外国人留学生入試制度等）を整備し、実行する。

【根拠データ、資料】

資料 3_Ⅲ-1-1	2023 年度海外協定校一覧
資料 3_Ⅲ-1-2	2023 年度学生海外派遣事業参加実績

Ⅲ-2. 高大連携について <<点検担当：梨本委員、入試課>>

【事実(データ)に基づく現状説明】

特になし

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	本学部に対する高校生等の理解度の深化
上記の方策	高校生や保護者等に対して、本学での学びや将来へのキャリア形成などについて、より深く理解し、身近なものに感じてもらうために、入門講座を企画・実施する。この入門講座のほか、高校や中学校での模擬授業を積極的に活用し、臨床検査技師に対する興味関心を掘り起こすとともに、高校や中学校での学びと本学部での学びとのつながりを意識してもらうことで、高校生の学習意欲の向上につなげる。

【根拠データ、資料】

なし	
----	--

Ⅲ-3. 地域連携について 〈点検担当：山下委員、学事課〉

【事実(データ)に基づく現状説明】

・地域連携活動については、新潟市秋葉区、新津商工会議所及び南蒲原郡田上町（いずれも本学と包括連携協定を締結）との取組みを中心に、【資料 3_Ⅲ-3-1：2023 年度の主な地域連携活動一覧】をはじめとする活動を行った。 本学の立地する近隣地域との連携については、地元自治体（秋葉区・田上町）、産業界（新津商工会議所）の協力もあり、コロナ禍前と同程度の取組みとなった。特に、田上町・町政 50 周年記念事業への協力や、秋葉区との「キャリア形成実践演習」等の教育連携により、本学学生が幅の広い世代間交流を実施した。田上町・町政 50 周年記念事業では、イベント会場内に吉田准教授が健康チェックブースを設け、本学学生とともに、参加者との交流を実施した。

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	アフターコロナを見据えた取組みの活性化を図る。
上記の方策	本学学生・教職員が地域社会に溶け込み、「実学一体」の地域連携による教育活動を実現できるよう、取組みを進めていく。
課題 2	「医療・健康講座」をはじめとする市民向け公開講座の拡充を図る。
上記の方策	高等教育機関としての知見を地域住民の方が気軽に学べ、興味をお持ちいただける事業とするために、社会情勢や最新環境に合わせ、各世代に役立つ講座となるよう、取組みを進めていく。

【根拠データ、資料】

資料 3_Ⅲ-3-1	2023 年度の主な地域連携活動一覧
------------	--------------------

Ⅳ. 教員・教員組織について

IV-1. 教員組織について 《点検担当：青木委員長、学事課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

「専任教員年齢構成・男女比」	
・医療技術学部の教員年齢構成は、50 代教員の割合が一番大きく、20 代教員の割合がゼロとなっている。40 代以上の教員割合が 8 割を占める。また、医療技術学部の女性教員の割合は 33.3%（15 名中 5 名）で、内閣府の男女共同参画白書令和 6 年版（ https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r06/zentai/pdf/r06_07.pdf ）第 10 分野に示されている大学・大学院の教員総数に占める女性の割合 27.2%を上回っている。	
「主要科目への専任教員の配置」	
・教育上主要と認められる授業科目である必修科目における専任教員による担当比率は、64.3%であるが、必修基礎分野科目を除く専門基礎分野の必修科目に限れば 96.2%である（2023 年度開講科目）。また、助教以上の専任教員で博士号を有するものは、15 名中 14 名であり、専任教員は優れた専門知識を有し、本学部の目的に沿った教育研究成果を期待できる十分な教員組織を編制している。	
「授業担当教員（授業担当負担）」	
・医療技術学部の 2023 年度の平均授業担当時間数は 35.7 時間であった。15 名中 1 名が 100 時間を超えている。【資料 3_IV-1-3】	

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	主要科目への専任教員の配置を行う。
上記の方策	教員数は充足しているが、専門必修科目を担当できる教員が不足しているため、適当な教員配置（助手配置など）を行う。
課題 2	教員の授業負担の改善を行う。
上記の方策	授業担当時間に偏りがあることから、各教員の授業担当時間数の平準化に向けた方策を講じるための協議を行う。また、委員会活動の負担調整を行う。

【根拠データ、資料】

資料 3_IV-1-1	教員の年齢構成表
資料 3_IV-1-2	教員別授業担当時間数

IV-2. FD 活動について 《点検担当：吉田委員、教務第一課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

・2023 年 7 月 12 日(水)に、「臨床検査技師教育における臨地実習の現状について」をテーマに研修を行った。【資料 3_IV-2-1】	
・本学部対象の FD 研修会は 100%の出席率であったが、全教員対象の研修会での出席率は 46.7%であった。【資料 3_IV-2-2】	

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	出席率の改善。本学部対象の研修会の出席率は、100%であったが、全教員対象の研修会の出席率が 46.7%と低かった。
上記の	本学部対象の研修会だけでなく、全教員対象の研修会についても委員から

方策	複数回の出席を働きかける。
課題 2	本学部の研修会の内容や回数の改善。
上記の方策	本学部の研修会は、臨地実習委員長のご提案により実施した。次年度も学会内の教員による要望や必要とされる内容について企画していく。また年度内の実施回数についても検討する。

【根拠データ、資料】

資料 3_IV-2-1	本学部の教員を対象とする FD 研修概要
資料 3_IV-2-2	本学部の FD 研修への参加率

V. 定員・学費の適切性について <<点検担当：青木委員長、学事課>>

【事実(データ)に基づく現状説明】

・2023 年度の医療技術学部の入学定員充足率は 103%であった。また、2024 年度入試における医療技術学部の入学定員充足率は 97%であり、定員を満たすことができなかった。【資料 3_V-1】 ・旺文社教育情報センター調査による「2022 年度大学の学費平均額」によると、医療技術学部と同系統の看護・医療・栄養学部系統/医療・保健学では、入学金 261,196 円、授業料 996,741 円、初年度納入金 1,734,106 円であり、医療技術学部の学費は全国平均とほぼ同等で適切であると判断される。【資料 3_V-2】

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	入学定員充足の維持に努める。
上記の方策	定員充足へ向けた施策の協議を行い、改善に向けた具体的な施策（医療技術学部の魅力、同系統の学科との違い等の抽出、構築や高校生へのその情報の伝達手段など）を示し、実行する。

【根拠データ、資料】

資料 3_V-1	医療技術学部 入学定員充足率
資料 3_V-2	医療技術学部 学費